

山口県の誇る瀬戸内産業

●山口県の産業のすがた

明治・大正期から山口県では石炭産業が栄え、その後、昭和の時代に入ってから化学やセメント、戦後は石油化学産業が瀬戸内海側に集積し、岩国地域では日本初のコンビナートが形成されました。以来、基礎素材型産業は産業コンプレックスの形成と合わせ、一貫して山口県の産業をリードしてきました。また、マツダの進出に伴い、昭和50年代以降は加工組立型産業も主要な産業の一つとなっています。



周南コンビナート

●山口県を支える基礎素材型産業

山口県の瀬戸内海沿岸では、大正時代より造船、化学、機械、金属などの工場が次々に進出。第二次大戦後は、石油化学コンビナートが形成され、全国有数の工業県に発展しました。宇部・山陽小野田などの西部地域では、美祢市の秋吉台を取り巻く周辺地域から産出する石灰石を原材料とするセメント製造工場が立地し、周南・岩国など東部地域では、ソーダなど化学製品を生産する企業が集中しています。

●輸送用機械、医薬品メーカーが集積

山口県は鉄鋼、石油、化学製品などの基礎素材型産業に加えて、輸送用機械の製造も盛んです。自動車の「マツダ」、鉄道車両の「日立製作所」、造船の「三菱重工業」など、大手輸送用機械メーカーが揃い、その周辺に関連産業が集積しています。

特に自動車は隣県の広島県（マツダ）に加え、福岡県（トヨタ、日産）と大分県（ダイハツ）の北部九州と合わせ、このエリアだけで230万台／年以上が生産される日本有数の自動車産業集積地を形成し、地理的には本県がその中心の利便性の高い場所に位置しています。

またメカトロニクス・電子部品関連産業や、充実した港湾・空港・高速道路網を生かした流通業なども発展。さらに、近年では医薬品、環境分野の進出がめざましく、医薬品の分野では、多くの医薬品製造工場が山口県に立地し、原薬生産額が全国第2位など年間の医薬品生産額は、全国上位に位置します。



●少ない自然災害（地震）

全国3位の地震の少なさ

下関地方気象台で震度観測記録が残る大正12年（1923年）以降の地震回数は839回であり、これは富山県（502回）、佐賀県（661回）に次ぐ全国3位の少なさとなっています。また、震度6弱以上の揺れが発生しておらず、震度5以上もわずかに7回となっております。

また、地震調査研究推進本部「全国地震動予測地図（基準日：平成29年（2017年）1月1日）」によると、今後30年以内に山口県で震度6弱以上の揺れが起きる確率は5.9%と、全国でも低くなっています。

■山口県における

大正12年(1923年)以降の震度別地震回数(平成29年(2017年)9月30日現在)

震度	1	2	3	4	5	6	7	合計
回数	515	217	73	27	7	0	0	839

※気象庁「震度データベース」をもとに作成

地震リスクの少なさに加え、山口県は地震保険の料率でも最低ランクであり、コスト面でも優位となっています。

電力供給の状況

全国的な電力不足が懸念された平成27～29年のいずれの夏も、中国地域では安定した電力供給が確保されました。また、国内の多くの電力会社が燃料費の増加による業績悪化で電気料金値上げに踏み切るなか、中国電力は引き続き現行の電気料金水準を維持しています。このように、山口県では安定した電力供給が確保されています。

中国電力の平成27～29年夏の需給実績

	最大電力	供給力	予備力	予備率
平成29年（8月24日）	1,077万kW	1,191万kW	114万kW	10.6%
平成28年（8月25日）	1,042万kW	1,161万kW	120万kW	11.5%
平成27年（8月6日）	1,075万kW	1,194万kW	119万kW	11.1%

※供給力からは、融通送電分を除く。中国電力HP資料より作成。ニュースリリース（実績報告）